

5・ドキドキ初えっち

トラック4のそのまま続き。

SE1…部屋の環境音 【トラック1〜4のSE1と同じ。トラック終了まで、ごく小さな音で流す】

〈主人公〉

「じゃあ。ふ、服を脱いで、裸になるよ。手伝うから……」

【緊張してくる】

うんっ。わかった。ぬ、脱ぐわ。

あ……脱がせてくれるの？」

〈主人公〉

「うん。万歳してくれるかな」

【ホッとする】

「うう？ 万歳するの？」

SE2…主人公がモニカの服を脱がせる音

【0〜8秒ほどまで流して止め、セリフ】

【恥ずかしいが、とても嬉しい。内心ニヤニヤしてしまう】

えへ……身体、見せるのは、は、恥ずかしいけど。何だか嬉しいかも。

私達これから裸になって。キスしたり、さわりっこしたり、するのよね。

すごく特別な関係になれた感じがする……。ふふふ！

【しかしここで、自分だけ服を脱いでるのが恥ずかしくなってくる】

あ。でもやっぱり恥ずかしいわ！

SE3…モニカが主人公の服をひっぱる音

【0〜3秒ほどまで流して止め、セリフ】

「あなたも早く脱いでよう！

【ピン！ とひらめく】

そうだ！ 私が脱がせてあげる」

SE4…モニカが主人公の服を脱がせる音

【すべて流す】

モニカ、主人公の服を脱がせようとするが、なかなかうまくいかない。

【うまくできなくて不安になる】

あれ？ この服どうなってるの？」

〈主人公〉

「いーかな……」

【少し安心する】

あ。なるほど」

SE5…モニカが主人公の服を脱がせる音

【0〜8秒ほどまで流して止め、セリフ】

「やった！ できたわ！」

主人公とモニカ、揃って下着姿になる。

【満足げに】

ふふ。これで。私もあなたも。だいたい裸ね！

【キスされる】

ん……ちゅっ♡

えへ。何だか幸せ」

SE6…モニカが主人公に抱きつく音 【すべて流す。音は元の音よりかなり小さめにする】

「ふふ。気持ちいい♡

【うっとりため息をつく】

……はあ。直接肌をびったりくっつけると、こんなにあったかいのね。

【うっとりしている】

あのね。私ね。あなたのおっぱい大好きなの！

柔らかくてもちもちで。

昔から抱っこされてると、すごく安心したのよ。ふふ！

前はせいぜい身体をくっつける位しかできなかったけど。

人の手になったら、こうやって包んで触れるのね。

ねえ。触ってもいい……？」

〈主人公〉

「えっ！」

【「ちよつと得意げに」

私知ってるのよ！ 胸。触ったら気持ちよくなるのよね？」

〈主人公〉

「う、うん。いいけど……。もう。モニカはえっちだなあ……」

「うふふ。じゃあ下着、とっちやうわね」

SE7…モニカが主人公のブラジャーのホックを外す『ふち』という音 【すべて流す。オ

トハ元の音よりもやや小さめにする】

モニカ、主人公の下着を脱がすなり、胸を夢中で触り始める。

主人公、こうなる事は予想していなかった。

てつきり自分が攻める側だとはかり思っていたので、驚くとともに、恥ずかしくなる。

【「主人公の胸に触って、うっとりしている」

はあ……ふわふわ♥

【「興奮してくる」

すごい。直接触るとこんなに柔らかいのね。

あの。これから。もっと触っちゃうけど。痛かったら言ってね？」

【「ゆっくり目に。興奮して」

ああ……ふにつてつかんだら、こんなに形変わって……すごい……。

手に吸い付く、みたい……！

【「主人公の乳首が勃起してきたのに気づく」

わ。真ん中のこども、何だか起き上がってきて。硬くなったわ……。

【「まずい事をしたのかと不安になる」

大丈夫？ 触って平気？」

〈主人公〉

「……いいよ……。こうなるのは、気持ちいいって事だから……」

【うまくできているとわかって、ホツとする】

あ。本当？

気持ちいいの……？　じゃあ、もつとしてあげるわ♥

【おっかなびっくり、乳首を触り始める】

こう？　硬くなったここ、くにくにって転がしてあげたら、気持ちいいの？
こうかしら。ふふ……気持ちいい？

【主人公が感じているらしい事を理解する】

あ。びくつてした♥

あのね！　ちよつとわかってきたわ。

【嬉しくなる】

気持ちいいのね？

【恥ずかしそうにドキドキしながら】

もつと気持ちよくなってくれて、いいのよ。

【少し言い出しづらい。少し間が空く】

あのね。急にセックスしてほしいなんてお願いして。あなたはいって言うてくれたけど。本当は、迷惑かけてるんじゃないかって不安だったの。
でもあなたが喜んでくれるなら。安心だわ……♥

【もつと嬉しくなる】

あのね！　私いくらでもしてあげる。あなたの気持ちいい事、全部教えて！

【返答を待つより先に、乳首をなめる事を思いつく】

あ！　そうだ。なめてもいい？　この硬くなった、おっぱいの先！

【主人公の乳首を口に含む】

ん……ちゅばっ。

【20秒ほどかけて、主人公の左乳首を吸う。小さめの音で、夢中で吸う】

くちゅるっ……ちゅばっ♥　ちゅっ、ちゅっ、くちゅっ♥　れろれろ……ちゅるっ♥

【口から離す】

ふはっ。

【とても嬉しい。意味はよくわかっていないが『感じている』という言葉を使ってみたくなる】

うふ。感じちゃった？

あ！　片側だけじゃ不公平よね。だってこっちも硬くなってるもの♥

こっちも……。はむっ。

【20秒ほどかけて、主人公の右乳首を吸う。先ほどよりも少し音が大きくなる】

れろ……ちゅっ♥　ちゅばっ、ちゅばっ。ちゅばっ♥　くちゅっ……ちゅるっ。れろ……くちゅっ♥

【口から離す】

うふ！

【主人公が気持ち良さそうなので嬉しい】

あなた顔。赤くなってる。気持ちよかったのね？
ねえ！ どうしたらもっと気持ちよくなるかしら？
教えて？」

モニカ、どうやらうまくできているらしいのが嬉しく、自信が湧いてくる。
主人公をそっと押し倒して覆いかぶさる。
対する主人公、とても恥ずかしい。すっかりおとなしくなってしまう。

SE8…モニカが主人公を押し倒す音 【0～1秒目の、1回目の『シュル、ドサ』のみ流す】

〈主人公〉

「ううう……あう……」

【完全に善意だが、まるで煽っているように聞こえる】
恥ずかしがらなくていいのよ。

【嬉しくてキャッキヤしている】

言わないなら♥ 私が自由に色々しちゃうわよ！

【胸全体をなめる】

れろっ……♥

おっぱい、舌を押し付けるだけでこんなにむにゅって形変わっちゃう。すごい……。
そうだ。

【お腹をなめる】

じゅるっ……♥ こことかも気持ちいい？

【主人公の反応がいまいちなので】

あ。そうでもないのかしら。

じゃあこっち？」

SE9…モニカが主人公の腕を真上にあげ『ポン』とおろす音 【0～1秒目の、1回目の『ポン』のみ流す】

モニカ、主人公の脇の下をなめる。

【脇の下をなめる】

ぺろっ。んんむっ……」

〈主人公〉

「あぁっ……!」

【嬉しい】

あ! 正解かしら。じゃあもつとしてあげる!

【20秒ほどかけて、主人公の左脇をなめる。比較的大きめの音で、じゅるじゅるなめる】
じゅるっ……ぺろっ ♡ れろれろ……ちゅるっ ♡ ちゅるる……ちゅっ ♡ ちゅっ、くちゅっ。れろっ。じゅるる……♡

【口を離す。嬉しい】

あなた、脇のところがとっても弱いね。覚えてわ!

あ♡ もちろんわかってるわよ。片側だけじゃだめよね!

こっちも……♡

【20秒ほどかけて、主人公の右脇をなめる。比較的大きめの音で、じゅるじゅるなめる】
れろろ……じゅるっ……♡ ペろっ。ぺろっ。ぺろっ。ちゅるっ ♡ ちゅるる……ちゅっ。
じゅるる……♡「

〈主人公〉

「もう……モニカぁ……くすぐったいよう……。気持ちいいけど恥ずかしい……」

「フッフ当然よ。気持ちよくなる事してるんだもの!」

〈主人公〉

「もう……モニカばかりずるい……」。

私もモニカに触りたい……。おっぱい触らせてよ……」

「……へ? 私のおっぱいも触りたいの?」

【どうしてそうなるのか、よくわからない】

私のおっぱい触ると、あなた気持ちいいの?

【『触るより、触られた方が気持ちいいのでは?』と思いつつ従う】
いいわよ? じゃあこれ。

【『ホック』であっているのか自信がない】

ホック? 外してくれる……?」

難しくて。自分じゃなかなかうまくできないの……」

SE10 …主人公がモニカのブラジャーのホックを外す音 【すべて流す。音は元の音よりも小さめにする】

【びくつとする】

……あ！

ひ、人に外してもらうと、すごく『わ！』ってなるのね。
何か急にすうすうして、は、恥ずかしい」

〈主人公〉

「私もさっきおんなじこと、されたんだけどお……？」

「そ。それは、そうだけどつ」

〈主人公〉

「だから私もしてあげる。後ろから抱っこして触っていい？ お膝の上、おいで」

SE11 …主人公がモニカを抱き上げて、膝の上に乗せる音 【0〜4秒ほどまで流してセリフ】

「【これから何が起こるのかよくわかっていない】

え？ 後ろ向きでお膝に乗るの？ こう？

【キスされる。さっきよりだいぶん慣れている】

ん♥ ちゅっ。

ふふ、好き。だいすき♥

【もう一度キスする】

ちゅっ♥

【後ろから胸を触られる】

あっ……♥

【びくびくつと感じてしまう】

あぁっ……♥ あは んっ♥ ひゃあっ……♥

【快感にわけもわからず、戸惑っている】

ねえっ？ 何かこれっ♥ 変じゃない……？ あっ♥ 何でそんなっ♥ 触り方っ。ひゃっ♥ するのお……？」

〈主人公〉

「モニカだって、さっき触ったでしょう？ お返しだよ……」

「私も触った、けどおつ。何か恥ずかしいっ♡

こ♡ こんなんじゃっ。あ♡ あっ♡ なかったわよおっ♡

【耳にふーっと息を吹きかけられる】

あ！

あっ♡ やだ耳っ♡ いじらないでえっ。

あっ、やあっ。そんなすんすん、しないで……くすぐったあい♡」

〈主人公〉

「モニカ可愛い……。私も大好き。モニカともっと色々したい。

ていうか、可愛すぎて、やばい……」

【「気持ち良すぎて、わけがわからなくなっている」】

へっ♡ 何がやばいのよお。やばいのはこっちだってばあっ。

【『でもこれは言わねば！』と思っている】

あっでも私も大好き！」

モニカ、くすぐったくて恥ずかしいが、主人公がいっぱい好きと言って、可愛がってくれ
るので嬉しい。

不安な気持ちはすでに失せて、主人公とじゃれ合えるのが嬉しくなってくる。

【「耳にいたずらされながら、乳首をいじられてびくっとする」】

ふえっ。ひやっ♡ やめてえ♡ そこ引っ張っちゃやあなの♡ あ♡

好き……。

【「20秒ほどキスする。あまり激しくなく、甘ったるい雰囲気。何度もキスしたり唇を離
したりを繰り返した後、強く舌を吸われる」】

ん♡ ちゅっ♡ あんっ……ちゅっ♡ んんう♡ ちゅ、ちゅ、ちゅっ♡ ああん……！
ちゅるっ。くちゅっ、ちゅっ♡」

〈主人公〉

「モニカ……もう我慢できないかも……こっちも触っていい？」

SE12 …主人公がモニカの股間に、下着越しに触れ、撫でる音 【0～3秒ほどまで流す。

音は元の音よりも小さめにする】

ここで主人公の手が、モニカの股間に伸びる。

モニカにとっては予想外の事で、非常にびっくりする。

【混乱する。どうしてそうなるのかわからない】

へっ？ 何でっ？ そこおしっこするところじゃあ いいの……？

【とても信じられない】

え？ ここ触ると気持ちよくなるの……？

【主人公の事が心配になる】

そうなの？ でもあなた、やじゃないの？」

〈主人公〉

「全然嫌じゃない。ていうか、すごく触りたい……。でも……」

「わ、わかった。あなたが、いいなら……。私。

【少し間を空けて。勇気を出して言う】

触って、ほしい……。

【恥ずかしいが、打ち明ける】

あ、のね。さっきからずっと。この。お股のところが熱くて。

何だかもうもぞするの……。

だから、あなたの言う通り。触ってもらったら気持ちいいんだろうってわかる……。

だから。あなたさえよかったら。

【泣きそうになりながらお願いする】

※特に聞いている側をドキッとさせる感じをお願いします。

して？」

〈主人公〉

「……わかった。じゃあ、ゆっくり、触るね？」

【「すくくドキドキしている」

うんっ」

SE13 …主人公がモニカの下着に手を入れ、股間に直接触れる音 【SE12と同じ音。

5〜8秒ほどまでを流し、SE14に移る】

SE14 …主人公がモニカの股間を愛撫する水音 【0〜3秒ほどまで流してセリフ。その

後335まで元の音よりかなり小さめに、繰り返し流す。セリフが音声のメインで、この

SEは『かすかだが、確実に鳴っているとわかる程度』でOK】

「手が伸びてきて、ドキドキする」

あっ……♡

【直接触れられて驚く】

ひゃ？

【感じてしまう】

んっ。あ。あっ……♡

【ゆっくり呼吸して快感を耐えようとする】

うんっ……はあ……はあ。あ♡ 平気っ。

【感じてしまう】

でもっ。ああっ……♡ 何か、熱くてえ。ふにやふにやするぅっ」
SE(1)で止める。

〈主人公〉

「モニカ。すっごく可愛いよ。それから……モニカの……。すごく濡れてる……」

※ここから次の「※」マークで達してしまうまで、非常に甘い声になる

「甘えた声で」

ふえ？ 濡れ？ やだあ。何か恥ずかしい……。でも何か……」

SE15 …主人公がモニカの股間を愛撫する水音 【378まで繰り返し流し、セリフの内容によって適宜スピードとボリュームを変える。詳しい指示はセリフ内の緑の網掛け】

「あ♡ ひあっ♡

【キスする】

ん。ちゅ♡

【唇を離す】

ああっ……何これえ♡ 本当にすっごく気持ちいい♡

あ♡ 大丈夫っ。このまま。触って……？

すっごく、あ♡ 気持ちいいからっ。もっと触ってっ？ ぐりぐりっして？

強くして大丈夫っ♡

※ここから少しボリュームを上げる

【夢中で腰を動かして、特に気持ちいいところに主人公の指が当たるように押し付けている】

はあ……ああ♡ あ、そこっ。好きっ♡

【夢中で腰を動かして】

あ、あ、あっ♡

すごい、すごいよう。ねっ。もっとさすって？ っ。気持ちいいのお……♡

あーっ……♡

【何とか会話したので、呼吸を整えようとする】

はあ、はあ、はあ……。

※ここから少しスピードを上げる

【甘ったるく】

ねえ、こんなにすごいのか？ セックスってこんなに気持ちいいの？

ふあっ♡ あっ♡

※ここからさらに少しスピードとボリュームを上げる

好きっ。好きっ。大好きっ。

ああっ♡ きもちいい、きもちいい♡ 気持ちいいよお。

あ、あ、あ♡ もっとして？ 大丈夫だからっ。あ♡ 大好き♡

【20秒ほど喘ぐ。さっきよりも声が高くなり、イクのに近づく】

あーっ♡ あ、あ、あ♡ きもちいい、きもちいいっ。

【ここで達する】

あああっ……♡

※ここでSEを止める。『急に止まった』という印象がないように、フェードアウトさせる

【10秒ほどかけて、呼吸を整える】

はあ……はあ……はあ……。

【少し間を置いて。呆然としている】

何これえ……？ 私、どうなっちゃったの……？」

SE16 …主人公がモニカの背中を撫でる音 【トラック3のSE8などと同じ音。0～1

秒ほどまでの1回分の『ぼん、ぼん』のみ流す】

〈主人公〉

「はあ、はあ……。よし、よし。モニカ、大丈夫？」

【すくく甘えた声で】

うん……大丈夫っ。訳わかんなくっ、なっちゃってた、だけえ……。

【10秒ほどかけて、呼吸を整える。さっきよりも落ち着いている】

はあ……はあ……はあ……。

【すくく甘えた声で】

でも、気持ちよかったあ。セックスってこんなにすごいのか？ ねえ。こんなのでて、人間って大丈夫なの？」

主人公、そう言われると恥ずかしくなってくる。

モニカとこうなってしまうって、自分は大丈夫かというと、大丈夫ではない気がしてくる。

〈主人公〉

「大丈夫じゃないかも……」

主人公、正直なところモニカともっとセックスしたい。が、そこで重大な事に気づく。

〈主人公〉

「あ。モニカ！ 耳！」

「く？」

〈主人公〉

「耳！ 治ってる！」

【すっかり忘れていた】

あ。何か音の聞こえ方違うなって思ったら……。

【今一つ信じられないので、鏡を見て確認しようとする】
か、鏡頂戴？」

〈主人公〉

「はいどうぞ」

SE17…主人公がモニカに鏡を渡す音 【2〜3秒ほどの『スー、チャ』のみ流す】

SE18…モニカが驚きのあまり飛び跳ねる音 【トラック4のSE11と同じ音。元の音より若干ボリウム小さめに、すべて流す】

「すごい！ 耳。完全に元通りになってる！

【主人公の頬に軽くキスする】

ちゅ！

やっぱりあなたにお任せして正解だったわ！

【恥ずかしい】

せ、セックスも。話にはすごく痛いつて聞いてたのに、全然そんな事なかったし」

〈主人公〉

「セックスって言ったのも、これでもう何回目かわからなくなってきたね」

【恥ずかしい】

もお。茶化さないで！

【不安になる】

あつでも、どうしましょう。こんなのすごい……覚え、ちゃったら。私。これからどんないやらしい子になっちゃうかも……」

〈主人公〉

「いいよ？ 私も気持ちよかったし……。私で良ければ……。好きなだけいやらしい子になつてくれても、大丈夫」

【すごく嬉しい】

いいの……？

【安心する】

じゃあ、よかった！

【軽くキスする】

ちゅっ♥

しばらく環境音のみを流し、フェードアウトする。